

コア・タイムス

[The Center for Overall Research on Education]

発行所 加西市立総合教育センター
加西市北条町古坂 1173-14
TEL 0790-42-3723
URL <http://kasai-core.net>

総合教育センター開設一年

加西市立総合教育センターは、本市における教育の充実と振興、青少年の健全育成の推進を図ることを目的として、平成23年4月に開設され、今月末に1年を迎えます。

当センターは、この1年間の事業をおして、加西市の教育目標である「新しい時代を切り拓くこと」豊かな人づくり」の実現に向け、教職員の研修講座の開催をはじめ、関係機関・団体とも連携し、地域の教育力の向上を図るための取組を行って参りました。また、発達支援プログラムや青少年の健全育成の推進、教育相談による適切な支援に力点をおいた事業を展開しました。しかし、不登校などの問題は依然として多く、子どもたちの望ましい成長が阻害されている要因の改善が図れていない状況があります。今後はその改善に向けたさらなる取組を検討し、子どもたちに「自己指導能力」を育成できるように努めることが重要だと考えています。



ヨン能力の不足から人間関係の構築が難しい児童生徒の増加や、学習に意欲が持てない児童生徒の増加など、その影響は顕著になっているように感じます。そのような課題を解消するためには、学校のみでの取組では限界があります。学校・家庭・地域が連携し、組織体として機能することが必要です。今、加西市では、ワッショイスクールや見守り隊、ブックママなど、学校支援ボランティアの活動があり、地域全体で学校を支える体制が整ってきています。また、地域での青少年健全育成活

動や補導活動、加西市ネット見守り隊による活動なども特筆に価する活動だと思えます。このような地域の力が加西市の教育を支える大きな力になっていると考えています。



教育は、社会発展の礎となる人材を育成する重要な役割を担っています。

る能力の育成に加え、国際社会に羽ばたく資質と能力を兼ね備えた人材を育てることが求められます。そのためには、教育の動向を見据えつつ、時代が要請する「確かな学力」と「豊かな心」、「健やかな体」を培うことに全力を注がなければなりません。来年度は、中学校でも新学習指導要領全面実施の年となりますが、現在進めています小中連携教育をさらに推進し、一貫性のある指導が実現できるように努めたいと考えています。



写真：受賞されたみなさん
右から、森本氏、吉田氏、住田氏(村田氏は欠席)

北播磨青少年本部の賞

北播磨地区の青少年健全育成に貢献された個人及び団体、または奉仕活動に尽力した青少年及び青少年団体に贈られる「北播磨青少年本部の賞」の表彰式が、去る2月25日(土)に加東市社福祉センターにおいて行われました。加西市からは、青少年の健全育成及び非行防止活動の推進にご尽力いただいている、加西市青少年補導委員の森本隆幸氏、村田博史氏。また、加西市剣道スポーツ少年団の指導者としてご尽力いただいている吉田秀貴氏。そして、加西市ジュニアリーダークラブ員の指導者としてご活躍いただいている住田麻美氏の4名が受賞されました。

受賞者の皆様おめでとうございます。今後とも、よろしくお願ひします。

発達支援プログラム 特別企画 教育講演会 開催

3月14日(水)、総合教育センターに、大阪医科大学附属病院の金泰子氏を講師に迎え、「子どもの心の痛みへの気づきと理解」をテーマに、講演会を開催しました。多くの保護者や教育関係者の参加があり、心身症や発達障がいを専門領域とされている金氏の小児科医師としての数々のエピソードや体験が織り込まれた熱い語りに耳を傾けました。

「困っているのに困った子と言われる。出来るはずだと思われ、出来ない叱られ、しないことが許されない。みなと同じやり方ですよう求められ、苦

子どもに寄り添うみなさんへ

Not doing, but being

- * 何もなくても、そばにいてだけで心地よい
- * 私が黙る・・・子どもが話し始める
愚痴/文句/うらみ/突拍子もないこと
ただ聴くことも大切な癒し
- * どこかにいると思うだけで心が温かくなるような人に
せかさず、あせらず、ボチボチと！

加西市発達支援プログラム
教育講演会

2012年3月14日



手なことを繰り返させられる。子どもたちの中には、出来る事、わかんないことがたくさんあるから、出来ないことには理由があると気づいてもらえないで困っています。」

診察室に訪れる子どもの声がかがやくことばとして受け止め、一緒に悩み、寄り添っている姿がありました。悩める子どもが、「自分がどうしたいのか」自分を愛せる人になるために、出来ることを共に考えることの大切さを学びました。

「ふれあいホーム」卒業生の作文より 前を向いて頑張ってみよう

私は、小学校6年生の時から「ふれあいホーム」(適応教室)に通室してきました。「ふれあいホーム」では、小中学生の他に、先生やメンタルフレンドとして大学生のお兄さんやお姉さんたちがいます。このお兄さんやお姉さんたちと遊んだり、おしゃべりしたりして、とても仲良くなれました。

みんなで色々な活動をしました。学童の他に山登りをしたり、姫路や明石の方まで見学に行ったりもしました。また、老人ホームでお年寄りの方々と交流もしました。その時の笑顔や笑い声は今でも忘れられません。たくさんさんの活動をする中で、



写真：鶉野平和祈念の碑苑見学風景

一番印象に残っているのは調理実習です。自分たちで計画を立てて買い物もしました。オムライス、ロールキャベツ、風変わりたこ焼き、みそ汁など、次々と思いつかれます。調理実習を通して、野菜の切り方や味付け、盛り付けもみんなで行いました。自分たちで育てた野菜も使いました。大根、白菜、ブロッコリー、ジャガイモ、ニンジン、たまねぎなどです。みんなで分担したり一緒に考えたりして、ワイワイ言いながら料理をして食べたことが、とてもいい経験になりました。

ここでの活動がエネルギーとなって、学校へ行ってみようかなという気持ちになれたと思います。今年は高校生になるので、前を向いて頑張ってみようと思っています。



写真：老人ホーム訪問風景

自分たちで育てた野菜も使いました。大根、白菜、ブロッコリー、ジャガイモ、ニンジン、たまねぎなどです。みんなで分担したり一緒に考えたりして、ワイワイ言いながら料理をして食べたことが、とてもいい経験になりました。

宮澤 章二さんの書かれた詩に、「行為の意味」という詩があります。この詩にあるように、あたたかい心、やさしい思いを大切にしたいものです。

「行為の意味」

あなたの心はどんな形ですか
ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも心は見えないけれど
ほんとうに見えないのであろうか

確かに心はだれにも見えないけれど心づかいは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど思いやりはだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
心も思いも初めて美しく生きる
それは 人が人として生きることだ